

「1 年生の花壇 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

キュウリは果実の成長が速い・・・ように見えるが、実はちがう。日本人が好むキュウリは、植物の果実的には非常に未熟な状態で、この大きさになるまでは大して時間がかからないからだ。



実際にキュウリを切ってみても、中の種子も未熟で、そのまま食べられる。糖分もほとんどゼロで、栄養価的には最低クラスの野菜である。1年生の畑のキュウリも、すでに収穫が近いものもある。スウェーデンのスーパーでもキュウリは見かけるが、「3本いくら」ではなく、黄色く熟しかけた大きいのを、1本 400 円ぐらいで売っている。あまりおいしくなかった。



スイカも植えられている。スイカを花壇で育てるのはかなり難しい。実ができて、小さいのが1個だろう。それもカラスの餌食が心配だ。



キュウリとちがって、スイカはなかなか雌花をつけない。今も花は咲いているが、ほとんどが雄花である。



メロンの苗も植えてある。メロンはスイカ以上に結果まで育てるのが難しい。特に土壌の水分の管理に相当気を付けないと、小さくて甘くない実しかならない。



枝豆は鉢に植えてある。枝豆は実は大豆と同じ植物で、熟す前のものを枝ごと収穫したのが枝豆だ。大豆と枝豆は豆の形が異なるが、大豆を水で戻すと、繊維が縦方向に膨張して、枝豆と同じ形になる。